から9カ月

コメの基準値超 相次ぐ

「安全宣言」一転

出荷見合わせ要請へ

福島、伊達、二本松三市の一部のコメで国の暫定基準値を超える放射性セシウムが検出され、県産米はかつてない危機に直面している。佐藤雄平知事のコメの「安全宣言」から一転し、出荷停止や緊急再調査の事態に追い込まれた。一方、文部科学省の原子力損害賠償紛争審査会は県内二十三市町村の全住民を賠償対象とする新たな指針を決めたが、対象外の二十六市町村の住民からは不満が噴出する。県民健康管理調査の問診票の回収率は低迷し、がれきや汚泥の最終処分は一向に進んでいない。

【コメ問題の経過】　※県内48市町村で作付け

8～9月	・早場米調査（20市町村、101地点）。全て出荷可能に
9月	・予備調査（48市町村、449地点）
9月23日	・二本松市旧小浜町で暫定基準値と同じ500ベクレル検出。本調査の重点調査区域に指定（288地点）
9～10月	・本調査（48市町村、1174地点）
10月12日	・全て出荷可能となり、佐藤知事が「安全宣言」
11月16日	・福島市大波地区のコメで県内初の基準値超え
17日	・政府が初の出荷停止指示
22日	・大波地区で全袋検査開始
	・特定避難勧奨地点を含む地域などで緊急調査開始（4市、旧12市町村の全戸）
28日	・伊達市旧小国村、旧月舘町で基準値超え（29日に出荷停止）
	・緊急調査に2市9旧市町村追加
11月30日	・過去に微量の放射性セシウムが検出された29市町村、旧129市町村の全戸で緊急調査実施決定
月2日	・福島市渡利地区で基準値超え（5日に旧福島市で出荷停止）
7日	・二本松市旧渋川村で基準値超え（8日に出荷停止）
8日	・伊達市旧富成村、旧柱沢村で基準値超え（9日に出荷停止）
	・佐藤知事が検査不備を認め謝罪。緊急調査地域での出荷見合わせ、自主検査徹底の方針示す

コメの検査体制の不備を謝罪する佐藤知事＝8日、県自治会館

コメ問題の発端は十一月十四日。福島市大波地区（旧小国村）で基準値（一キロ当たり五〇〇ベクレル）を上回るコメが見つかった。佐藤雄平知事が十月十二日に出したコメの「安全宣言」からちょうど一カ月。その信頼性を根底から揺るがした。県は政府の出荷停止指示を受け、全袋検査に乗り出した。

さらに全戸調査を行う緊急再調査を開始したところ、事態は拡大し、九日までに伊達市霊山町小国地区（旧小国村）、同市月舘町の一部（旧月舘町）、福島市の一部（旧福島市）、二本松市の一部（旧渋川村）、伊達市保原町富沢・高成田地区（旧富成村）、同市保原町柱田・所沢地区（旧柱沢村）で相次いでコメの基準値超えが確認された。

□緊急再調査

県はコメの安全性を再確認するため、八～十月に行った早場米検査、予備調査、本調査でわずかでも放射性セシウムが検出された二十九市町村の旧百二十九市町村でも緊急再調査を行うことを決めた。しかし、対象は約二万戸に上り、生産量は約十万三千トンと県内生産量の三分の一に相当する。このため、県は県内各市町村の検査協力をはじめ、農林水産省から財政、人的な支援を受けて取り組む。調査が終了するまで基本的に出荷を見合わせてもらうが、ＪＡなどの自主検査体制の徹底で安全性を確認したコメについては出荷を認める方針だ。

□知事が謝罪

コメの国の基準値超えで、検査体制の不備を指摘する声が高まった。県が収穫後に、作付けした全四十八市町村で実施した本調査は抽出方式で、作付面積の大小にかかわらず旧市町村単位でわずか二点。調査地点の選定も「文科省の線量マップや県の土壌調査で線量が高い地域とした」（県水田畑作課）とするが、実際には特定避難勧奨地点や、山あいで線量が高いとみられる場所が外れているなど、網の目の粗さが目立った。佐藤雄平知事は八日、「早期出荷に結び付けたい思いがあった。空間線量が高い地域でのモニタリングのやり方、多くの専門家の意見を聞くなど反省すべき点があった」と検査の不備を認め、謝罪した。

□原因究明急ぐ

県は現在、基準値を超えた地域の土壌を国や大学と連携して…し、原因究明を急…いる。水田の多くは…林に囲まれた山あ…地域」（同課）と…共通点がある。山…放射性物質が沢の…ら流れ込むという…家の指摘もあり、…なども含めて今後…策が課題となる。…省は来年のコメの…け制限の方針を年…示す予定だ。

ＪＡ新ふくしまの倉庫に隔離されている福島市大波地区産のコメ＝7日

「苦労して作ったのに…」

やりきれぬ生産者

「せっかく苦労して作ったコメなのに…。どうして今ごろ」。福島市渡利で稲作を営む男性（六三）は自宅の倉庫に積まれたコメを前にため息をつく。

十月に収穫した後、民間業者に放射性物質測定を依頼し、白米で検出限界値未満を確認した。家庭で消費する分を除き、自信を持ってＪＡ新ふくしまに出荷していた。

大波地区で暫定基準値を超える放射性セシウムを含むコメが見つかり、その後の県の全戸検査であらためて測定。結果は玄米で検出限界値未満で安全のお墨付きをもらった。

しかし、同じ地区の別の農家から基準値を超えるコメが見つかり、同地区を含む旧福島市は出荷停止に。…分のコメは大丈夫…のに。矛盾を感じる」とやりきれなさが…る。

「出荷停止」の…（らくいん）で、…

キノコ類 影響深刻

山間部、除染めど立たず

東京電力福島第一原発事故で放射性物質が降り積もった山間部は除染のめどが立たず、地表近くの養分を吸収するキノコ類への影響は深刻だ。厚生労働省によると、暫定基準値の一キロ当たり五〇〇ベクレルを一度でも超えたキノコ類は十二月七日現在約百三十サンプル。本県、茨城、栃木、千葉四県の一部自治体ではシイタケやナメコの出荷制限が続く。

とりわけ乾物は、乾燥時に放射性物質が濃縮され、被害は本県から離れた地域にも広がる。

静岡市で茶と乾物の販売店を営む男性は十月、静岡県東部の干しシイタケから暫定基準値を超える放射性セシウムが出たと聞き、言葉を失った。「お歳暮の売れ行きは厳しい」と嘆きは深い。

″フルーツ王国″の地位も揺らいだ。福…市の観光農園で桃や…を作る紺野淳さん（…は「果物狩りの客は…例年の七割減だった…と話す。リンゴから…出された放射性物質…基準値の十分の一程…だが、売れ残ったリ…ゴをジュース用に引…取る業者もいない。

枝や幹に残った放…性物質は樹皮から吸…される。県果樹研究…は樹皮の剥ぎ取りや…

放射性物質の状況

…市、伊達市、二本松市の一部地域…準値を超え、出荷停止中
…タケ、ナメコ、マツタケなどが基…超え。福島、茨城、栃木、千葉の…地域で出荷停止中
…ンプルが基準値超え。茨城、栃木、…、千葉、神奈川の一部地域で出荷…中
…ナゴ、アイナメ、アユなど160サン…が基準値超え。福島沖で操業自粛
…、宮城、福島、栃木で8月まで一…荷停止に
…ステップ（850グラム缶）で放射性セシウ…大30.8ベクレル検出

知識高め判断を

野口邦和・日本大専任講師（放射線防護学）の話　大量の放射性物質が降り注ぎ、野菜などが高濃度に汚染された時期は過ぎた。国の暫定基準値は食品が安全かどうかを示した値ではなく、放射性物質がどこまで許容されるかを示した値。「一ベクレルで…

もある…値ぎり…に買え…とち…値以下…人はい…したい…のコメ…ば、大…

線量情報なく町民孤立

国と県、予測伝えず

安全信じ…空白の4日間

浪江町の津島避難

3・11大震災 検証

きょう震災9カ月

8〜10・30 31面に記事

東日本大震災から十一日で九カ月を迎える。震災と東京電力福島第一原発事故により、今も多くの県民が県内外で避難生活を送る。原発から北西に約二十五キロ離れた浪江町津島地区。事故後の三月十二日から四日間にわたり、多くの町民が避難生活を送った。国は十二日、津島地区がある原発から北西方向への放射性物質拡散を予測し、十三日には地区の十キロほど東側で高い線量を計測していた。しかし、国、県からは何も伝えられず、町は線量を把握できずにいた。

■避難者あふれる

「津島に行こう。支所があるし学校を避難所として使える」。国の避難指示が原発から十キロ圏に拡大した三月十二日、浪江町災害対策本部会議で幹部職員の意見が一致した。町内の津島地区は誰もが安全だと信じていた。

原発から二十九キロほどの距離にある町津島支所。固定電話は一切使用できず、無線もない。通信手段は時折つながる携帯電話だけだった。根岸弘正町総務課長(55)は放射性物質の飛散を心配していた。十二日午後には国の指示は二十キロ圏内の避難に拡大された。「まだ、それよりは十キロほど離れている」。不安を打ち消した。

人口千四百人ほどの津島地区は約八千人の町民であふれた。津島小、津島中の体育館では避難住民が肩を寄せ合う。馬場績町議(67)の自宅にも二十二人が寝泊まりした。見知らぬ顔もあった。避難者は井戸水や沢の水を飲み、しのいだ。

〔浪江町の動きと原発事故の経過〕

3月11日	午後2時46分	東日本大震災の発生
	午後7時3分	政府が原子力緊急事態宣言を発令
	午後9時23分	3キロ圏内に避難指示
12日	午前5時44分	10キロ圏内に避難指示
	朝	浪江町民が津島地区に避難開始
	午後3時36分	1号機で水素爆発
	午後6時25分	20キロ圏内に避難指示
14日	午前11時1分	3号機で水素爆発
15日	午前6時ごろ	2号機で爆発音　4号機で水素爆発
	午前	津島地区から二本松市に避難開始
	午前11時	20〜30キロ圏内に屋内退避指示

浪江町津島地区を目指す避難者の車列＝3月12日（浪江町提供）

避難者の多くは津島地区で避難生活を続けた。車のガソリンが底を突くケースもあった。馬場町議は「町の災害対策本部がとどまっていたため、避難住民は安全だと思っていた」と振り返った。

十四日夜、津島地区の南に隣接する葛尾村で「全村避難する」との防災無線が流れた。静かな山あいにある津島地区にもその声が届いた。「ここにいて本当に大丈夫なのか」。避難住民に動揺と不安が一気に広がった。

■伏せられたデータ

原子力安全技術センター（東京）は震災直後から一時間ごとの「緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）」の試算を開始した。十二日には津島地区への放射性物質飛散を示すデータもあった。

根岸課長は後に公表されたSPEEDIを見て目を疑った。住民が避難した津島地区は茶褐色の線に囲まれ、高線量を示していた。「（線量の）情報さえあれば…」

国は試算が不正確で誤解を招くとして公表を見送った。しかし、早い段階で公表していれば避難の参考になったと国の対応を非難する声もある。

県は十三日にSPEEDIの試算結果をファクスで三十二枚、国から受け取っていたが、公表しなかった。その理由について「予測の前提となる放射性物質の放出量が現実と懸け離れていると考えられた」と説明する。

十二日の県の調査で町中心部の酒井、高瀬地区は高い線量が計測されていた。津島地区から十キロほど原発寄りの町内室原地区は十三日に国の調査が行われ、線量計は毎時三〇〇マイクロシーベルトを振り切った。しかし、国や県から放射線の情報が町に伝えられることはなかった。

十四日正午ごろ、根岸課長は3号機の爆発を伝えるニュースに言葉を失った。これまで漠然と抱いていた不安が一気に強まった。

町は線量計二台を保有していた。十二日、町は線量計が必要になると想定せず、町役場に線量計を置いたまま移動していた。「数日後には役場に戻れると思った。事態がどんどん悪化するとは…」。町の関係者は今も悔やむ。

31面に続く

福島民報
2011（平成23）年
12月11日
日曜日
発行所
福島民報社
福島市太田町13－17
（郵便番号960-8602）
電話代表　(024)　531－4111
編集局531－4119　広告局531－4153
事業局531－4173　販売局531－4178
購読のお申し込み
0120-373437
© 福島民報社 2011

福島民報ホームページ
http://www.minpo.jp/
読者センター 0120－803344

あすの朝刊は休みます

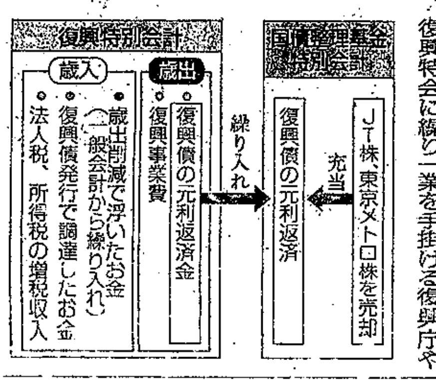
きょう11日（日）は休刊日とし、新聞製作を休みますので、あす12日（月）付の朝刊は休ませていただきます。ご了承ください。ニュースは福島民報ホームページ、福島民報の携帯サイト、ラジオ福島の「福島民報ニュース」をご利用ください。　福島民報社

復興特会

増税の流用防

税収を直接繰

東日本大震災の復興費を管理するため、政府が二〇一二年度に新設する復興特別会計の仕組みが十日、判明した。臨時増税の税収は、通常の予算を手当てする一般会計を通さずに直接、復興特会に繰り入れ、「復興債」も特会が発行する。一般会計とのつながりを少なくし、復興のために国民が負担する税金などが他の経費に流用されないようにする。

復興特会は、復興事業を手掛ける復興庁や

復興特別会計の仕組み